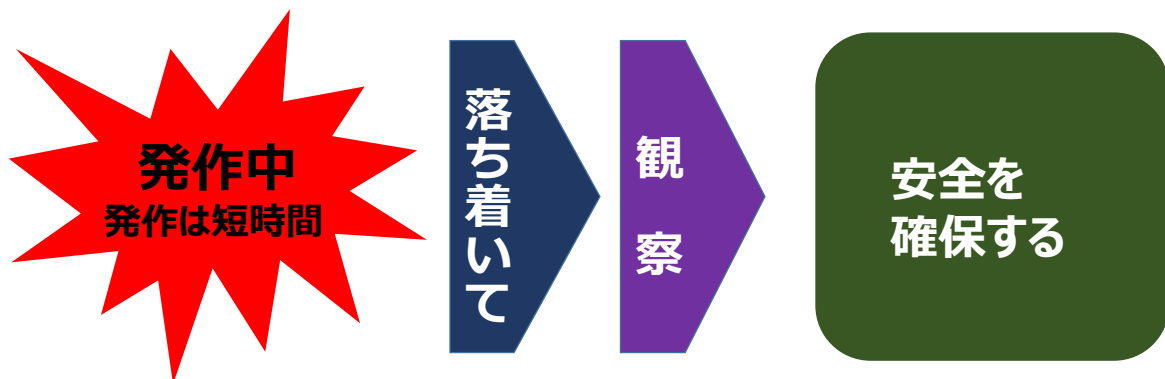


15分で学ぶ！ 障がい者支援の基礎 ～てんかん～

第三回 「てんかんの発作への対応」



発作が起きたら



けいれん

【けいれん】

- ・横にして、危険を防止
- ・その場で経過観察
- ※口の中には物を入れない。



<けいれん終了後>

- ・怪我の有無を確認
→ 怪我があれば病院へ
- ・様子観察

【意識消失後のもうろう状態】

- ・立ち上がろうとしたり、歩き回ろうとする場合



- ・無理に行動を止めない
- ・危険が差し迫っている場合は、後ろから制止
- ・危険がなければ時々声をかけて、意識の回復程度を確認

【大きなけいれん発作の場合】

- ①危険物(水、火、高所、機械の側など)を遠ざける
 - ②転倒などによって他者や本人がケガをしないように気を配る
 - ③衣服の襟元やベルトを緩め 安楽な姿勢にする
 - ④メガネ、コンタクトレンズ、ヘアピンなどに注意する
- ・発作中、激しく突っ張りあるいはガクガクとけいれんしている間は下あごに手をあてて、上方にしっかり押し上げ気道を確保してください。窒息や舌を噛むことを防ぐことができます。
 - ・食事中や食事直後に発作が起きると嘔吐する場合があります。嘔吐物により、窒息する危険性があるので、嘔吐物や唾液をふき取ってあげましょう。

【転倒】

- ・保護帽の着用・施設の中の環境を少なくする
- ・危険な場所では腕を組んで歩く
 - ※ 頭部打撲の際には、意識の回復が明らかに遅い場合、一度はっきりした意識が回復した後に、再び意識がもうろうとする場合には病院を受診

【入浴中】

- ・呼吸可能な状態にし（水面から顔を出す）、浴槽の栓を抜く
- ・浴槽の中でけいれんが終了するのを待つ
- ・人手があれば浴槽から引き上げるが、原則、意識回復まで浴槽から引き上げない
 - ※ 必ず監視が必要。転倒による怪我・やけどの危険にも注意

【プール】

- ・体を支えて水面から顔を出す
- ・意識回復後にゆっくり水から上げる（入浴中と異なり、水が抜けない為、複数名で介助）

【食事中】

- ・食べ物がのどに詰まること、誤って肺へ入ることがある為、発作終了後の様子を注意深く観察
 - ※ 窒息、やけどに注意

発作中にはしてはならないこと



身体をゆする



抱きしめる

昔から伝わってきた「口にものをくわえさせる」という方法は間違い。口の中を傷つけたり窒息してしまう恐れがある



叩く



大声をかけるなど

発作が終わったあとの意識が曇っている間に水や薬を飲ませない。窒息や嘔吐の原因になる。



発作後

●ぼーとした状態が続くことがあります

立ち上がろうとしたり歩き回ったりする場合

- ・無理に行動を抑制しない
- ・観察する

制止しなければならない場合

- ・後ろからベルトなどを軽くつかむ
- ・介助者の体を何気なく歩く方向に入れそっと押すように歩く

●嘔吐することがある

- ・吐物がのどにつまらないように下あごを軽くあげ顔を横に向ける
- ・横にし、呼吸しやすいように衣服のボタンを外し、ベルトを緩める

てんかん重積状態

- けいれん性てんかん重積状態 – 全身がけいれんする発作が繰り返し出現するか、長く続くもの
- 意識が回復せず全身けいれんを3回以上繰り返すか、10分以上けいれんが持続する場合、救急車を呼ぶ
- 非けいれん性てんかん重積状態 – 意識が半分あるような、ないような状態が長時間持続
- 心因性発作との区別には、脳波記録が必要

救急車を呼ぶ場合



- 今まで発作を起こしたことがない
(てんかん以外の病気の可能性もあるため)
- 発作が5～10分以上続く
- 最初の発作が回復しないうちに次の発作が続いて起こる、
または呼吸困難がみられる
- 朦朧状態が長く続く、または完全な意識の回復がみられない
- けがや病気の徴候がある
- 負傷し、出血がひどい

てんかん重積状態

通常、発作は数分以内におさまり、ほとんどの発作は救急の医療措置を必要としません。

検査



【脳波検査】・・・てんかんは脳の神経細胞の過剰な電氣的発射によっておこるので、脳波検査で記録することができる。脳波検査はてんかんの診断のために最も重要な検査であり、診断のみでなく、てんかんの発作型の判定にも役立つ。何回検査しても安全で、痛みはない。ただし安静が必要

【脳波検査の他にも】・・・C T 検査やM R I 検査などは、脳腫瘍や脳外傷などを画像で確認できるため、てんかんの検査に有効である。P E T などでもてんかんの検査に使用

【血液・尿検査】・・・血液・尿検査もてんかんの診断に欠かせない検査。てんかんの発作は様々な原因でおこるので、原因検索のために血液や尿の検査をする。てんかんの薬物治療は長期間にわたり薬を飲み続ける必要があるので、服用する前に体の状態を調べる必要がある。

発作のリスクを想定しておく

病歴や作業中の発作観察等に基づき、発作による受傷の危険性を検討し、個別支援計画等で対応を事前に決めておく

- ◆ 転倒する発作が週1回以上見られた人
 - ⇒ 職員による送迎時の介助方法、保護帽の着用
- ◆ 受傷の恐れのある危険な転倒する発作のある人
 - ⇒ 立位作業の禁止
- ◆ 転倒する発作のある人 ⇒ 肘掛付きの椅子に座って作業する
- ◆ 発作時、発作後姿勢を保持できない人 ⇒ 刃物類の禁止
- ◆ 強直や転倒する発作や麻痺のある人
 - ⇒ 机上に比較的やわらかい材質のマットなどを敷く

話し合いシート		法人名	
視聴日時	年 月 日 ()	事業所名	
	時 分 ~ 時 分	氏名	
受講後の感想 (気づいたこと、学んだこと、これ から取り組んでみたいことなど)			
疑問に思ったこと、質問したいこと など			
備考欄			